埼玉純真短期大学研究論文集　第 10 号　PP.106-110

バリ島研修４日目
インターナショナルスクール / ガネーシャ大学　訪問記録

小　澤　俊太郎
（こども学科　助教）

～インターナショナルスクール訪問～

【説明会】

はじめに，インターナショナルスクールの説明が行われた。

通訳をSTIBA大学のエプリルさんが務めてくれ，学校の施設のこと，カリキュラムのことを説明して頂いた。

非常に充実した設備と，独自の英語学習におけるカリキュラムが整っていた。

つい，「ここで英語を学びたい」と学生が口に出してしまうほどの，魅了的な学習が実施されていた。

【教室を回る】

実際に使われている教室を回っていく。

そこでは全て英語で会話がなされ，特にタッチパネルを用いた学習や，英語の発音トレーニングの教育が印象的であった。

説明会でも伺った，「S」の発音のトレーニングを実際に見学でき，学生から拍手が出ていた。

感覚的に感じる発音トレーニングは素晴らしいと感じた。

【廊下にて】

英語圏の行事のものや，子供たちが描いた絵などが壁などにたくさん飾られていた。

音楽室なども完備しているとのこと。

非常に豊かな感性を育てる教育にも，力を注いでいることがうかがえる。

【最後に食事をいただき，学校案内の交換】

朝早くの訪問を気遣っていただき，飲み物と食事を頂いた。バリ島の伝統的な食事とお菓子を頂き，素敵な思い出に加え，お腹も一杯になった。

最後に，両学長間で，学校案内の交換と，意見交換などが行われた。

短い訪問時間ではあったものの，有意義な時間をいただき，また手厚い歓迎に感謝の気持ちで溢れ，インターナショナルスクールを後にした。

～ガネーシャ大学訪問～

【ガネーシャ大学の学生によるバリ舞踊】

左の写真は歓迎の時に踊られる，バリ舞踊である。

右の写真は蟻（アリ）をモチーフにしたものであり，蟻がみんなで力を合わせ，一つになるという意味が込められているのだとか。

【両学長による挨拶】

ガネーシャ大学の学長と埼玉純真短期大学の学長による，スピーチが行われた。
お互いの文化を尊重し合う素敵な内容であった。
日本人・バリ島の方々に共通する精神を理解し，聴衆が一つとなった。
真剣に耳を傾ける学生の顔に，時に満面の笑顔が混ざり素晴らしい時間となった。

【ガネーシャ大学の学生におけるパフォーマンス】

左の写真はインドネシア語の歌をガネーシャ大学の学生が熱唱してくれたものである。
言葉こそ理解はできないが，リズム・メロディー・歌唱力から感じられるものがあり，日本人の心にも，とても響いた。今一度，音楽の力強さを再認識した瞬間でもあった。
右の写真はバリ舞踊を現代風にしたものである。かなりアクロバティックなダンスと，観客の笑いを誘う，とても楽しい演技も入り，感嘆と笑いが絶えなかった。

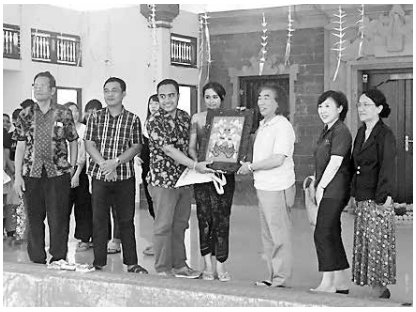
【埼玉純真短期大学の学生よるパフォーマンス】

「はじまるよ」・「旅立ちの歌」・「世界中の子供たちが」を，手遊び，合唱，手話にて披露した。ガネーシャ大学の学生にも受け入れてもらえ，とても良いものとなった。
こちらの学生たちも，やりきった気持ちと，分かり合えた喜びでとても良い表情であった。

【お互いの学生・教員が一緒に踊る】

バリ舞踊を踊るガネーシャ大学の学生に指名され，お互いの学生と教員が順番に舞台に
上がり，バリ舞踊を踊った。日本人にとっては初めての体験となったが，必死に真似をしながら踊った。このような体験ができるのはとても貴重であり，とても素晴らしい思い出となった。私も舞台に上がって踊らせて頂いたのだが，とても難しく指先への意識や目の動き，細部の繊細さがとても重要であるのだなと感じた。この辺りも，日本人の「細かいとこにこだわる精神」に通ずるものがあるのだなと感じた。

【全員にて記念撮影とプレゼント交換】



会場を巻き込んでの踊りで，全員の心が一つになり，盛り上がりは最高潮となった。
そして，最後に記念撮影とプレゼント交換で文化交流会は幕を閉じた。
今回の研修を通して，私たちの心には，良い意味での，共通点と，相違点が刻まれた。
お互いを理解し，尊重することの大切さと，これからの時代を共に生き抜くために，お互い協力していく必要性を感じた。
今回の「きっかけ」を「次」に繋げていくことも，同時に問われていると感じる。